



低音無双。

ベーシストが選ぶべきもう一つの提案。

ベーシストにとってこのような提案を私は見たことはありません。
エレキベースによるウッドベースの再現。

ベーシストのために、またしても B.J.F. は新たななる楽しみを見つけてくれました。

突然、彼は言い出しました。
子供のころ、レコードで聞いた英国バンドのベースの音は
すべてが普遍的に暖かいトーンを奏でていた。
あの音を思い出した、再現をしたい。

私は問います。
そんなコンセプトを持つエフェクターは聞いたことがない。
巨大なボトムエンドを持つウッドベースの音を
エレキベースで再現するということはそもそも可能なのか？

彼は答えます。
可能だ。弦の違いがあるからこそエフェクターとして成り立つ。
マッチした回路を作れば可能だ。

意外にもその討論をしているときに、もう彼の頭の中には
完璧な回路が設計されていて、あとはそれを形にするだけでした。
そこから出てきた音はまさにあの音。50年代のベーストーン

さあ、楽しみましょう。
あなたのベースプレイがもう一つの可能性を導きます。

One Control CRIMSON RED BASS PREAMP

User Guide ユーザーガイド
CONGRATULATIONS ON YOUR PURCHASE!!!

このたびは、ワンコントロール、クリムゾンレッドベースプリアンプをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
本機の性能を十分に発揮するため、
また誤使用による不具合を防ぐためにこの説明書をよく読んでお使い下さい。

ベースサウンドの基本的な音色を作る。世界に数あるベースプリアンプという機材をまとめると、こう表現するのが適切と言えるでしょう。
音色はもとより、操作性や機能、サイズ、形状、スタイル、端子など、ベースプリアンプはエレキベースのサウンドには欠かせないものです。

多くのコンパクトエフェクターと同様のスタイルで作られる、ベース用プリアンプペダルは、外観は似ていても様々なスタイルが作られています。
アクティブベースのアクティブ回路を搭載したことから、大型ベースアンプのプリアンプセクションに近いものまで、多様な機能と音色で、ベースサウンドを彩ります。足元に手軽に設置できるので、楽曲やフレーズに合わせて適切なプリアンプを選択して使用することも出来ます。

One Control Crimson Red Bass Preamp は、一般的にコンパクトなものが多いベース用プリアンプペダルの中でも、特にコンパクトでシンプルです。
One Control オリジナルの極小アルミ削り出し筐体に3つのノブとインプット、アウトプット。多くのベースプリアンプのようにノブや端子がずらりと並ぶスタイルとは全く違っています。

ベース用プリアンプペダルの多くが、ノブや端子を多数搭載した機能的なペダルであることには理由があります。ベースサウンドの要として基本的な音色を作るものであることから、1台でベーシストが求めるサウンドを網羅し、ベーシストが必要とするルーティングに対応する、という設計思想によるものです。

Crimson Red Bass Preamp は、全く逆のスタイルのベースプリアンプです。
ベーシストが求める全てのサウンドやルーティングを網羅するペダルは、時に中途半端な結果に終わることもあります。
Crimson Red Bass Preamp が作ることのできる音は1つ。アップライトベースやウッドベースと呼ばれる、あの暖かいベーストーンです。

ナチュラル、クリア、ハイファイなベーストーンやプリプリ歪むトーンなど、エレキベースとベースアンプを使って作ることのできる音は、同時に様々なベースプリアンプペダルでも作る事ができます。

エレキベースでアップライトベースの音を。あの魅力的で、妖艶で、太く暖かな広がりを持つトーンを。それが **Crimson Red Bass Preamp** です。

エレキベースのサウンドは、アップライトベースとは比べ物にならないほどブライトでくっきりしています。エレキベースの音を作るためのプリアンプでは、どれだけイコライジングをしてもアップライトベースの音を作るのは困難です。

1951年にプレジジョンベースが発売されるまで、ベースといえばコントラバス、つまりウッドベースやアップライトベースと呼ばれるベースが一般的でした。マルチトラックレコーディングが未完成だった時代、レコーディングで音の大きいウッドベースはマイクから離れた場所でプレイをしました。そして生まれた数々の名盤で聞くことの出来るあのアップライトベースの音こそ、**Crimson Red Bass Preamp** が求めたトーンです。

体の中心が共鳴するようなローエンドとどこまでも伸びるようなローミッドレンジ。スムーズでギラつくことは一切ない、暖かなハイミッド。
BRILLIANCE ノブを回せば、音色全体の明るさをコントロールできますが、常に暖かなアップライトベースのトーンは維持されます。

Crimson Red Bass Preamp の **GAIN** ノブは、音全体の太さ、暖かさをコントロールすることができます。弦の太さを変えるような感覚や、アップライトベースのボディが振動するようなサウンドを作ります。ジャズのクールなトーンから、ロカビリーのホットなトーンまで、歪みを加えることなくコントロールできます。

Crimson Red Bass Preamp は、これまでのベースプリアンプ、そしてベースエフェクター全体で考えても特異的なペダルです。初めて音を出す時には、是非アンプから少し離れたところで音を聞いてみてください。

世界最高峰のクラシック楽器の真骨頂はコンサートホールで聞いてこそ発揮されます。**Crimson Red Bass Preamp** も同様、アンサンブルの中で抜ける音、スピーカーから少し離れて聞くことで、そのサウンドを理解することができます。

Crimson Red Bass Preamp のサウンドをスピーカーのすぐそばで聞こうとすると、聴感上ベーストーンのレンジが狭まったように感じたり、音量が抑えられて聞こえる場合がありますが、これはエレキベースのブライトなトレブルをアップライトベースのスムーズなトーンへと変換しているためです。
Crimson Red Bass Preamp はエレキヴァイオリン用のプリアンプとしても使うことができるほどダイナミックレンジはとて広く、また高出力です。スピーカーから少し離れて音を聞けば、意外なほどパワーがあり、アンサンブルの中で抜ける存在感とプレイをきっちり再現するレスポンスが実感できます。特に **VOLUME** ノブの設定には注意して音作りを行ってください。

●各部の名称と使い方

INPUT: ベース側のケーブルを接続します。

OUTPUT: アンプ側のケーブルを接続します。

VOLUME: 音量を調整します。少し離れた位置から音を聞いて調整して下さい。

GAIN: 音の飽和感を調整します。音色全体の太さ、暖かさをコントロールできます。

BRILLIANCE: 音色全体の明るさを微調整します。

FOOT SWITCH: エフェクトの ON/OFF を切り替えます。OFF 時はトゥルーバイパスとなります。

DC INPUT: センターマイナスのスタンダードな 9VDC アダプター (**One Control EPA-2000 推奨**) を接続します。9~15V の電源に対応します。

9V BATTERY: 裏面4角のスクリューを外し、裏蓋を開けて **006P** 型 9V 電池をセットします。

●特徴

- ・ウッドベースサウンドを再現するベースプリアンプ
- ・暖かで厚く存在感のあるトーン
- ・ローノイズで、アクティブ、パッシブ問わず使用可能
- ・アルミ削り出しのハイクオリティなミニサイズケース
- ・電池内蔵も可能
- ・トゥルーバイパススイッチング

●Specification

インプットインピーダンス : 650K

アウトプットインピーダンス : 25K

駆動電圧 : 9~15V

消費電流 : 1mA @9V

S/N 比 : 80dB

サイズ: 39W x 100D x 31H mm (突起含まず)

47W x 100D x 48H mm (突起含む)

重量: およそ 160 グラム (電池挿入時 200 グラム)

※電池は付属しません。

Crimson Red Bass Preamp (CRBP) は、エレキベースでアップライトベースのトーンにどこまでも迫ることの出来るプリアンプだ。
あの大きなアップライトベースを苦勞して運搬しなくても、エレキベースで同様の音を作ることができる。
フレットレスと組み合わせればさらに良いだろう。